

# よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

第24号 主のご降誕（2022年12月25日）発行



## 信仰、恵みと派遣

### プロ・アルフォンソ神父

「信仰は神の賜物、恵みです」とよく言われます。しかし、「もしそうなら、なぜ神はある人に信仰を与え、別の人に信仰を与えないのでしょうか?」と問いかける人もいます。あなたはどうか答えますか? 信仰とは何かを簡単に答えられないなら、少なくとも贈り物とは何かを自問してみましょう。

なぜ私たちは他人にプレゼントを贈るのですか? 贈り物を受け取る時はどういう気持ちですか? 贈り物に関して重要なことは贈り物自体よりも贈る人と受け取る人との関係です。小さくても大きくても、プレゼントは友情、愛情、感謝などのしるしです。または、苦しい時の共感、困ったときの助け、さらに、「おめでとう」、「これからもよろしく」、などの意味を持っています。ギフトは匿名にすることもできます。「この喜ばしいプレゼントをくれたのは誰でしょう?」と。受け取る方が豊かになり、差し上げる方が貧しくなるわけではなく、かえって二人の関係が深まるだけです。

贈り物に関するもう一つの重要な側面は受け取った人の反応です。「恵まれた私は、

何をすべきか、何によってお返しができるか。」例えば、奨学金をもらった学生は一生懸命勉強し、学んだことを社会貢献に活かしていくでしょう。

十人の重い皮膚病患者のたとえを思い出しましょう(ルカ 17: 11-19)。全員が癒された(救われた)が、ひとりだけが自分が癒されたことに気づき驚きました。彼は神に賛美と感謝しながら、戻って来て、救い主に会いました。イエスは彼に「他の九人はどこにい



るのか?」と尋ね、「行きなさい、あなたの信仰があなたを救った!」と彼を送り出します。

神の愛に気付いた人こそ信仰のある人です。信仰に恵まれた人々は、主に出会い、感謝をささげるために集い(ミサ)、具体的な愛の業によって目に見えない神の愛を証しするために派遣されて歩みます。

## 『わかちあい釧路』感謝と報告

いつもお祈りとご協力を感謝しています。お陰様でこのプロジェクトも2年目に入りました。開始直後からカトリック教会のメンバーはボランティアの仲間として加わってくださり、心強く思っていました。今では市内のいくつかの教派の兄弟姉妹が、様々な形で応援の輪に参加して下さっています。YWCA や友の会の有志の方々が核となり、約20人の人々が毎回進んで作業を引き受けてくださり、人材面では全く不安はありません。

一方、食材や資金についても、企業や商店や個人が進んで提供して下さり、改めてこの釧路には心の温かい方々が多い！と実感しています。2～3日に一度は、まだ会ったことのない方が名前も告げず両手に支援物資を持って来てくださいます。新聞を始めメディアも進んで人々への紹介に協力して下さり、当初はかなりのチラシをあちこちに配っていましたが、マスコミ・ロコミ・リピーターがその役割を担ってくれています。公私の各種団体からのご支援もたくさん寄せられ、まるで“緩慢な奇跡”を毎月観せられているようです。

しかし他方、市民を取り巻く経済状況は昨年よりむしろ深刻さを増しており、「やっぱり始めてよかった！」と毎回思います。‘焼け石に水’のような運動かも知れません。毎月約70家族に食糧を配りますが、ジレンマ

わかちあい釧路 代表 奥村 敏夫牧師  
があります。更に必要としている方々がいる半面、私達には限界があります。そしてボランティアの方々の間での‘合言葉’は「こんなアクションを必要としない社会を目指して」です。今後もしかし、暫くは継続していく必要があります。

助けを必要としている方々の為に、カトリックの皆さんが今後もこの働きを覚えて食糧（お米・レトルト食品・お菓子・インスタント食品等）お寄せいただけると嬉しいです！毎月貴教会から寄せられる食品は大きな力になっています。

これからもこの道東初で唯一の食糧配布プロジェクトを、皆さんの祈りと協力によって進めてまいりましょう。ありがとうございます。皆様にどうぞよろしくお伝えくださいますように。シャローム！



## 洗礼式を迎えるに当たって

ルツ 菅原 千枝子

私は釧路教会に通わせていただきもうすぐ三度目のクリスマスを迎えようとしています。求道者の菅原千枝子と申します。

12歳の時、マックス・フォン・シドー主演の「偉大な生涯の物語」という映画を観てイエス様の柔和で慈愛に満ちた静かな眼差しに心が揺さぶられる程の深い感銘を受けました。

教会へ通えるようになって、「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。」(コヘレト 12: 1)を学び、私はなんと長い日々を神さまから離れて「迷える羊」そのものだったのだとやっと理解できました。

3年前の春、膝の手術のため、入院していた時、同室になった網走教会信者のSさんの手術前に神父様がおいでになり、「病者の塗油」を授けていただいているのを目の当たりにし、カトリックの信者さんだったと知り、この方に教会のことを教えていただきたいと思いました。

今まで心の中でひとりよがり信じていたキリスト教について質問をし、答えていただき、退院する頃には、すっかり仲良くしていただき、その方の励ましとアドバイスで背中を押していただき、このチャンスを逃してはいけないと思い、勇気を出して教会の門をくぐりました。

先ず、水曜日の会に入れていただき、まだ、コロナ禍が始まる前でしたので、毎週

ごミサに与らせていただき、その後の昼食会にも誘っていただいたり、バザーも参加させていただきました。

昨年の春からはプロ神父様に「マルコ福音書」を教えていただき、今は洗礼の準備の段階です。

何の取り柄もなく、心苦しいですが、これからは釧路教会の一員として加えていただき、神父様のお導きの元、信者の皆様と共に祈り、歩み続けていければと願っております。

どうぞ宜しくお願いいたします。

(2022年12月4日記)



## マウリリオ神父様、有難うございました

59年間の道東での宣教活動を終えて10月9日に母国、イタリアへ帰国されました。  
これからのラザロ神父様のご健康をお祈りしましょう



神父さまから皆さんへ  
主の平和

59年間、皆さんと共に過ごしてきましたが、10月にイタリアに帰国することになりました。私にあたたかい心を表してくださいましたことに感謝します。

足りなかったことや迷惑をかけたことをお許してください。

長い間、お世話になりありがとうございました。はなれていても祈りで支え合いましょう。さいごまで…。お元気で

A. マウリリオ・ラザロ神父



### 編集後記

長年、慣れ親しんできたミサ式次第が待降節第一主日から新しいものになりました。

日本の司教団が年月をかけて、ラテン語を翻訳し、日本の教会に合うように改訂しました。

しばらくは式文の本を手放されませんが、御ミサ自体が新しく変わる訳ではありませんから早く慣れていきたいです。

コロナウイルス感染症やロシアのウクライナ侵攻が続いていますが、1日も早く明るい兆しが届くよう願うとともに世界の平和を祈りつつ、主の降誕を祝います (N.K)

カトリック釧路教会 <https://kushiro-catholic.cloud-line.com/>

〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会